

矢野中通信 3月号 No.2

平成21年度 学校評価 結果の分析について(11月実施)

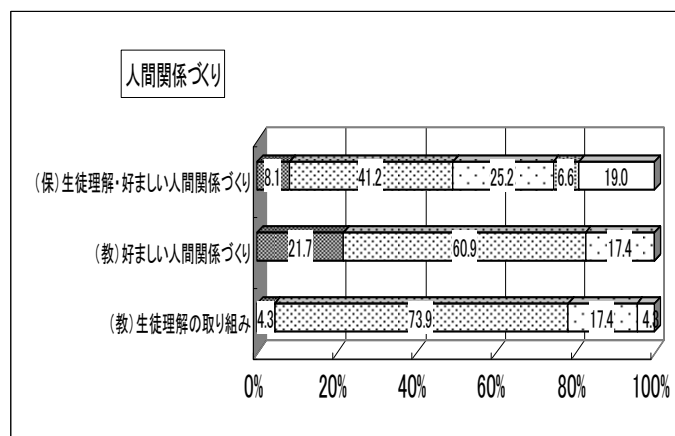
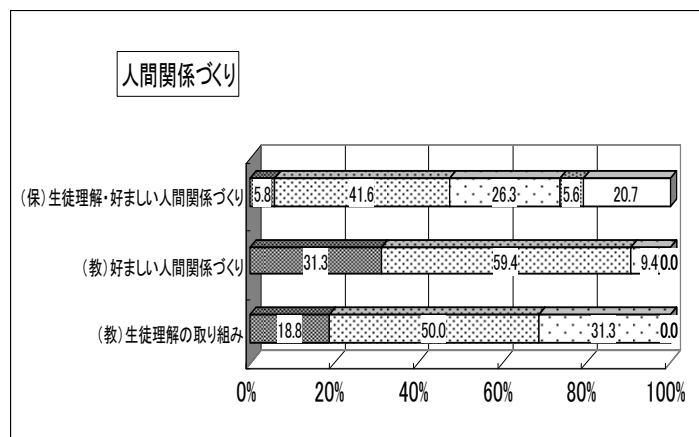
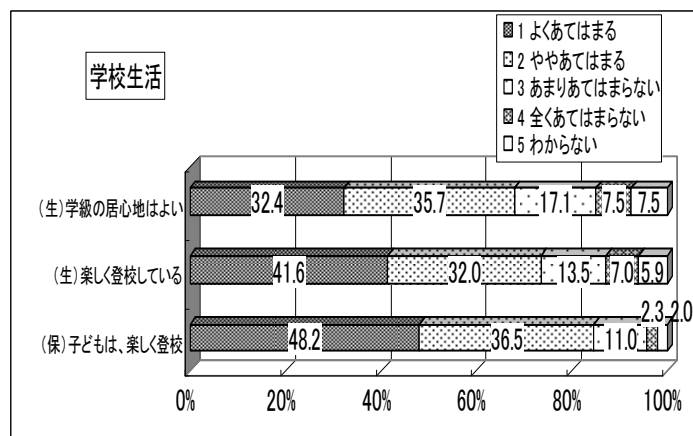
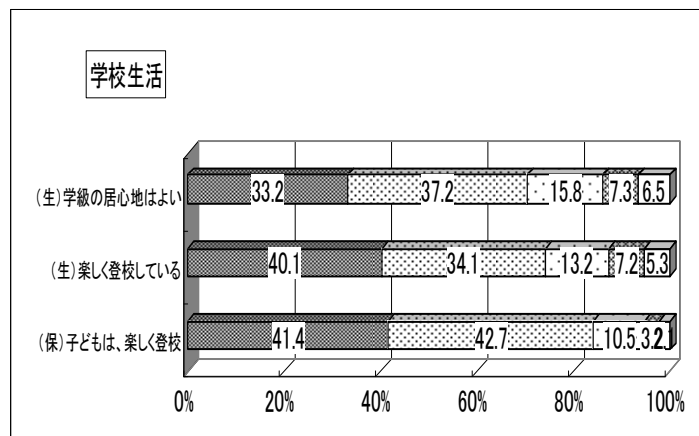
早春の候、保護者の皆様には日頃より本校教育活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

「平成21年度の学校評価中間アンケート」の集計ならびに分析について報告させていただきます。

11月末に実施いたしました「平成21年度の学校評価最終アンケート」は中間評価の結果からの取り組みを評価していただきました。アンケートを集計・分析し、本校教職員による研修を経て、取り組みを検討してまいりました。励ましのお言葉や厳しいご意見をいただきましたが、今後の教職員の取り組みとして活かしてまいります。なお、いただいたご意見につきましては、検討し、改善していきます。(生)…生徒、(保)…保護者、(教)…教職員を表しています。

(グラフ 左：7月評価 右：11月評価)

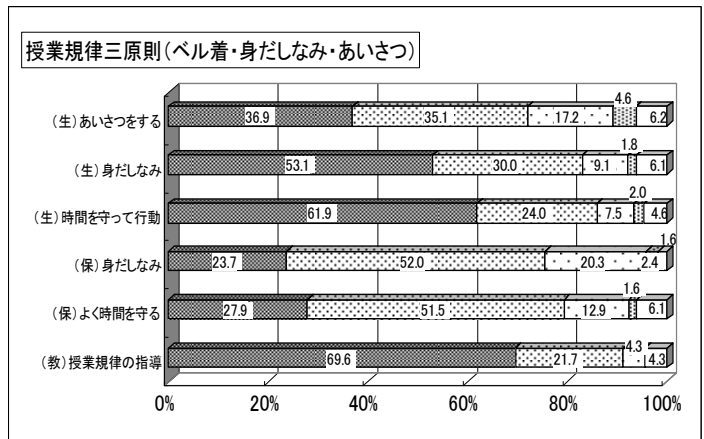
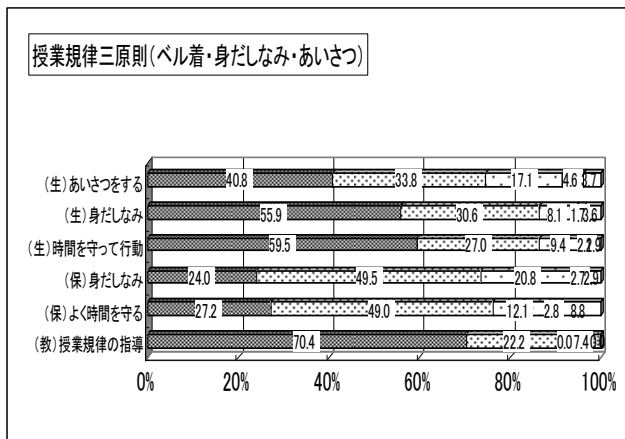
【学校生活・人間関係づくり】



「子どもが楽しく登校している」については、生徒も保護者も中間評価と変化は見られないが、学級の居心地については約3割の生徒が否定的評価をしている。また、「一人一人の生徒を理解し、生徒同士や生徒と先生の好ましい人間関係づくりに努めている」では、教職員と保護者の評

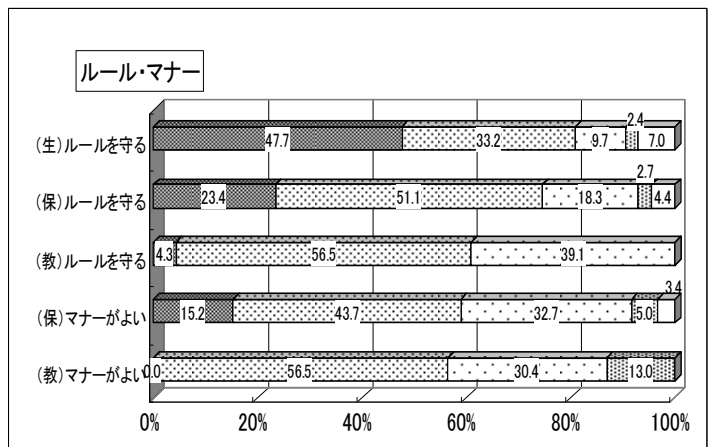
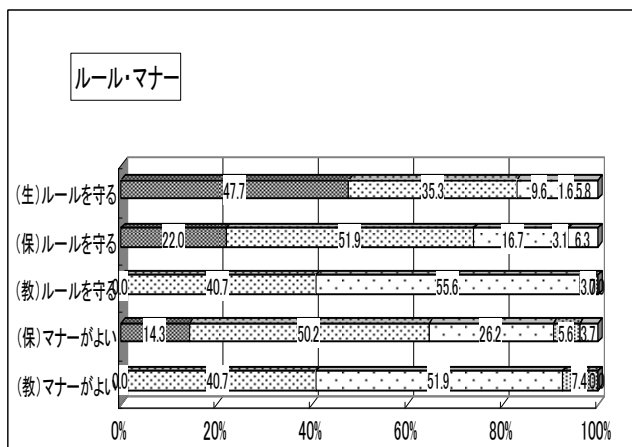
価にかなり差がある。見えづらく伝わりにくい部分ではあるとはいえ半数近くは否定的評価である。教職員は日常の学校生活の様々な場面など意識して生徒と関わってきている。しかしふれあい週間では十分な教育相談の時間もとれていないこともあったので、さらに円滑な実施を工夫して生徒と対話し個々の思いを受け止める時間を確保することが必要である。本校では生徒の理解のためにQ-Uテストを実施し、その結果を学年会で情報交換し役立てている。今後とも有効に活用していきたい。生徒同士の関わる力は関わる場面を多く設定することで、育むことが出来る。本年度は「生徒同士のかかわりあいを持たせた授業づくり」を研究テーマに全教科で「生徒同士の好ましい人間関係づくり」を目標に取り組んでおり、生徒もいろいろな授業の中で小グループでの学習を通し他と関わり合う事を学んでいるところである。今後も「生徒同士が聴きあい、関わり合う」ための指導を継続する必要がある。

【授業規律三原則（ベル着・身だしなみ・あいさつ）】



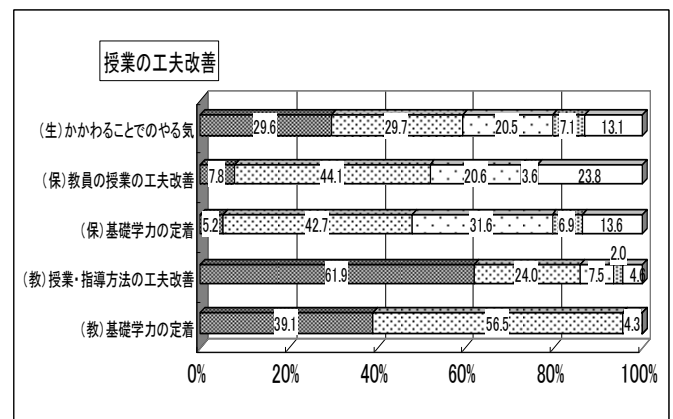
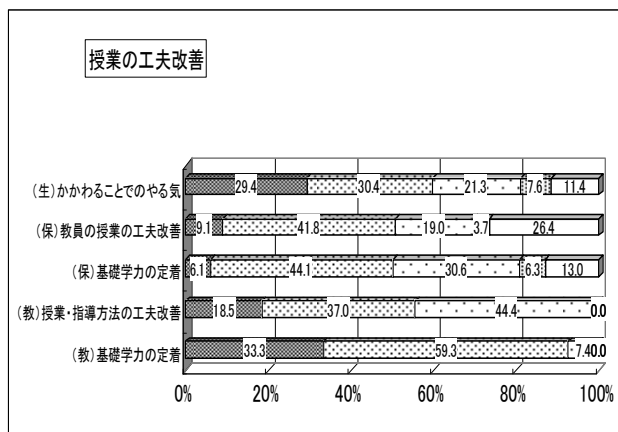
生徒の「あいさつ」「身だしなみ」「時間」については、あまり評価に変化が見られなかった。今後も、授業前後の指導と共に、生徒会のあいさつ運動などでも工夫が必要である。「時間」については、中間評価の時点で下校時間が守れていないこともあり、生徒会の取り組みとして部長会を通し部活動の終了時刻についての意識を持たせるようにした。今後とも下校時間が守れるよう継続指導していく。生徒会部内では、下校放送を今後とも継続していく。全校ベル着キャンペーンや、身だしなみキャンペーンなどで時間や、服装のきまりを守る意識を向上させることができたが、キャンペーン期間以外でも、教職員も継続指導していくことが大切である。保護者の評価については、「身だしなみ」「時間」とともに評価が上がりつつある。(昨年度:「身だしなみ」69.5%「時間」76.9%) また、「授業規律(ベル着、身だしなみ、あいさつ)」については数値にかかわらず、学級指導や個別指導等で今後とも粘り強く取り組んでいく必要がある。

【ルール・マナー】



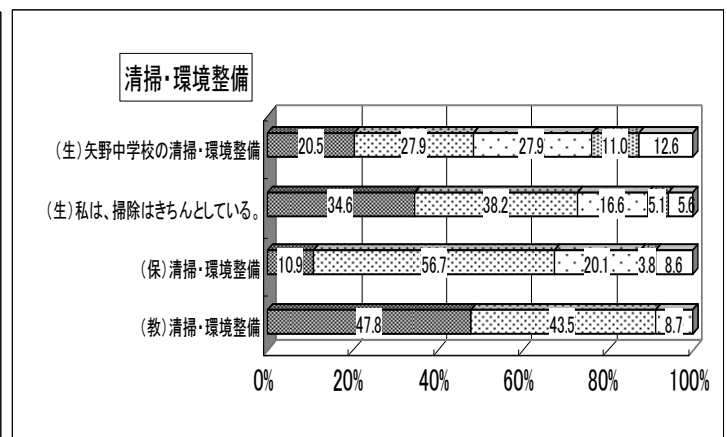
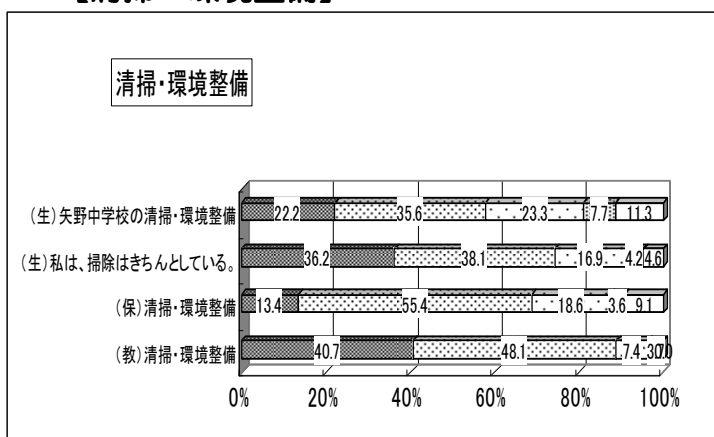
昨年度、アンケートでは「矢野中のルールやマナーは守られている」と肯定的評価をした生徒が3割程度しかいなかったが、今年は約8割の生徒が自分については肯定的評価をしている。また、保護者の肯定的評価は昨年の5割から7割へと上がっている。大部分の生徒はルールを守りきちんとした学校生活ができている。しかし、まだ地域では登下校のマナーが悪いという実態もあり、教職員の肯定的評価もまだまだ低い。否定的な評価をした1割の生徒のみでなく、全校指導、学年・学級指導、個人指導を通じ、規範意識を育てていけるよう取り組むことが大切である。また、今年度は、「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」（広島市教育委員会）の協力校として、道徳の授業や、学級活動、行事などを通して、規範意識を高めるような取り組みの工夫を学ぶことができた。

【授業の工夫改善】



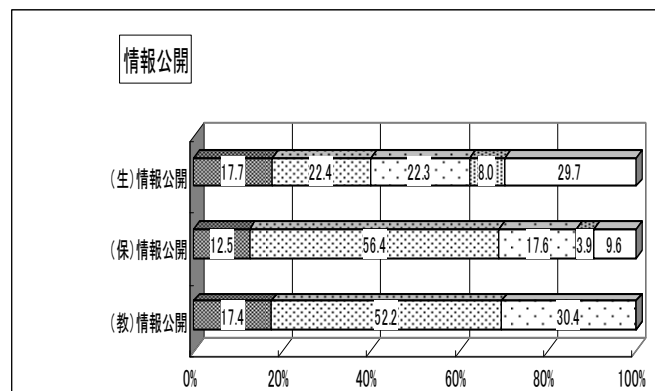
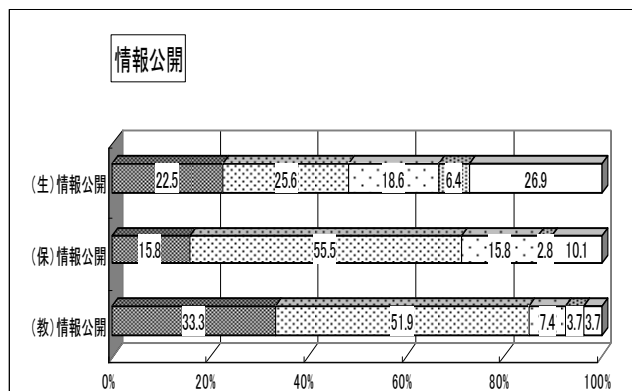
「基礎学力の定着」については、「基礎・基本」定着状況調査や全国学力・学習状況調査の結果からも、また、保護者の肯定的評価（約5割）からも、さらに取り組みが必要だ。家庭学習の習慣を定着させることができるように、課題の与え方なども工夫・改善をしていく必要がある。昨年度の質問項目では「授業に楽しく取り組める場面がある」で、生徒の肯定的評価が約7割だったが、「授業中、小グループで関わりあいながら取り組むことで、今までよりもやる気になった」という項目に対してはほぼ6割の肯定的評価となった。授業改善の取り組みは、研修をしながら取り組んでいるところであり、教員の評価は大幅に上がった。しかしながら、生徒・保護者に十分に伝わっていないこともあり保護者・生徒の肯定的な評価は低くなっているため、今後は知ってもらい取り組みも必要である。

【清掃・環境整備】



教師は、毎日の清掃指導を通して生徒に働きかけ、生徒会も美化キャンペーンも計画的に実施して全校生徒の意識向上に努めている。昨年度（46％）とくらべ、肯定的評価がやや上昇した。生徒の「自分自身の清掃への取り組み」の評価に対し、「学校の清掃活動・環境整備」はかなり低い。老朽化した校舎に対する不満もあると思われる。保護者の肯定的評価に比べ、生徒の評価のほうが低いのは、毎日生活している上での思いもあると感じる。しかし、約2割の生徒が清掃活動に否定的評価をしていることから、日常的な美化活動に積極的に取り組める生徒、生徒の心を育てていく必要がある。また、活動の内容に対しても指導を継続する必要がある。やっているという意識だけでなく、実際清掃の仕方はどうか、きれいになっているかを意識できるような取り組みを考えなければならない。

【情報公開】



本年度は、授業参観、部活参観の実施や体育祭で生徒の一致して頑張る姿を保護者・地域に公開できたが、後期の文化祭がインフルエンザのため中止され、残念ながら文化活動で生徒のがんばる姿が伝わらなかった。また、学校のいろいろな通信類を持ち帰らない生徒もまだおり、取り組みが必要である。「情報公開の機会」を増やし、家庭との「情報伝達」のツールとして作成する冊子「矢野中ナビ」をより有効に活用していただけるよう工夫したい。